

— 図書館情報 —

～文庫本フェア～

7月21日(火)より9月30日(水)の期間、文庫本フェアを開催します。
たくさんの方の文庫本を読みましょう。<10冊まで借りられます>
(貸出し期間はなんと!72日間です。)



- 8月は、日曜日(16日を除く)・13日・14日・15日・17日と図書館が指定した日以外は、開館します。土曜日は、16:00まで開館します。
(詳しくは、ポータルサイトのカレンダーをご覧ください。)
- 試験の準備、レポートの作成、論文検索等に是非、図書館を活用してください。
- 映画・インターネット・グループ学習もできます。
- ワード・エクセル・パワーポイントもできます。
(USBの使用は、カウンターでチェックを受けてから使用できます。)
- ★ 先生方による感動した「この一冊」を広報に載せますので、是非参考にして、休みに読んでみてください。
- 8月・9月の前半は図書館が比較的空いています。
静かに学習したい人・図書館の疑問を尋ねてみたい人・卒論で使用したい人
お待ちしております。



蘭香代子先生(人間関係学科)の推薦の一冊です。是非一読を!

「西の魔女が死んだ」: 梨木香歩(なしきかほ)

～推薦文～

微妙で多感な年頃の思春期では、個性の芽生えと仲間意識の形成の狭間で潰されがちな自我の問題が起こりがちである。この本はそんな事例に対して、自我の強さと柔軟さの形成という心理療法効果を果たしている。長老的存在の西の魔女(おばあさん)のことばや関わりが療法そのもので実に素晴らしい。親で成しえない超自我の役割として生きている。元来、家族やカウンセラーにとっての関わりは評価ではない。常に相手のこころを受け入れ、感情移入によって相手を遅く一体化していくことである。個性としての自我の強さや柔軟さが育つまで、副え木でなければならない。また本来の家族機能もつ素晴らしい関わりを、魔女と称するおばあさんと孫を通して描き展開している。

梨木香歩の文章は、やわらかくて読みやすい。この作品は児童文学新人賞を受賞している。駒女の純真で揺れる乙女心には、共感し課題として良い多くの示唆を含んでいる。新潮社文庫本で400円だが、本の中身の価値は大きい。

概要を紹介すると、思春期の主人公「まい」は、喘息もちでそして「扱いにくい子」「生きていきにくいタイプの子」と思われている感受性の強い女子である。中学校で偽善的な女友達のなかでただ無為に群れることにあさましさを感じ、個を主張したことがいじめのターゲットにされた。どこにでもよくある話だが、こと多感な中学生である「まい」は、学校に行けなくなった。単身赴任した父と仕事熱心な母は相談して「まい」をおばあさんの住む田舎に預かってもらうことにした。これは現代の親がもつお任せ感の依存問題でもある。とにかく「まい」は祖先を魔女だというおばあさんの野性的な暮らしで、心を癒し、精神的に強くなる魔女修行をしていく。これは私たち心理療法でとる態度と共通している。「規則正しい生活をする、なんでも自分で決める、決めたことを実行していく意思」を育てるのである。なんとも自然描写が生きていて、「まい」もおばあさんも生き生きと描かれている。

逃避し押しつぶされていた「まい」が癒しと保護空間のなかで次第に主体感覚を賦活していく姿が描かれている。やがて体力と意志力がつき、「まい」は父の赴任した先の中学校に転校するが、もう生きていきにくいタイプの子ではなく、価値を共有する親友を得、主体的な学校生活を送るようになった。

Happy end である。

